

いずも

つながる
ひろがる
ささえあう

vol.165 | 7月・8月号 | 令和8年8月20日発行 |

社会福祉法人
出雲市社会福祉協議会



TOPIC! 《p2》特集 「ちがい」をつなぐ、地域の「翻訳者」に

島根県外国人地域サポーター 堀西 雅亮さん

《p4》令和7年度事業報告

《p5》令和7年度決算報告

《p6》お知らせ・募集

- ・たすけあいボランティア 協力会員募集中!
- ・認知症高齢者等「SOSメール」 発見協力者・事前登録の募集

災害義援金・海外救援金のお知らせ

《p7》ご寄附ありがとうございます

《p8》令和8年度出雲市総合社会福祉大会

いずりんレポート

- ・出雲養護学校×市社協 高齢者疑似体験授業
- ・島根トヨタグループが地域福祉に貢献!
- 募金百貨店プロジェクトとは?

ふくしの支え手企業 vol.7株式会社さんちゃんマート

「ちがい」をつなぐ、 地域の「翻訳者」に

「支援が必要な状態」を なんとかしたい

堀西さんは出雲市内で住職をしながら、島根県外国人地域サポーターとして活動されています。国籍や文化の違いに関わらず、子どもも大人もすべての人が安心して暮らせる地域づくりを目指し、日々駆け回る堀西さん。「お坊さんがなんで外国人の支援をしているの？」と聞かれることも多いそうですが、堀西さんはこう語ります。

「外国人の支援ではなく、支援が必要な状態をなんとかしたいと思っていますよ」

その言葉の背景には、堀西さんの歩んできた道のりと、現場で深めてきた視点がありました。

違和感から始まった原点

大阪生まれの堀西さんが出雲に住んだのは、中学校の3年間。国内を転々と引っ越す中で、イントネーションなど、ちょっとした違和感やすれ違いを感じる経験をしてきました。その体験が、今の活動に繋がっています。

島根県外国人地域サポーター
ほりにし まさあき
堀西 雅亮さん

活動の原点となったのは、阪神・淡路大震災でした。震災をきっかけに「多文化共生※」という言葉が浸透し始め、高校生の頃から「海外とつながる仕事がしたい」「日本語教師になりたい」という想いを抱いていた堀西さんは、神戸で日本語教師になった後、技能実習生を受け入れる監理団体で勤務します。そこで実習生がおかれた過酷な現状を目の当たりにし、「実習生が働く職場の多文化共生をやりたい」という想いを強くしました。

2004年に応募した社会起業家のコンペで問題意識を訴えた際、審査員だった多文化共生センターの設立メンバーで代表の田村太郎氏から声をかけられたことをきっかけに、翌年から「多文化共生センター大阪」に所属して調査事業などをスタートさせました。この出来事が、堀西さんにとって大きな転換点となります。

出雲への移住、自身の変容

しかし、父の病気がきっかけで2007年に出雲へ移住し、住職の跡を継ぐことに。出雲と大阪の行き来を続ける中、出雲を拠点として立ち上がったNPOの活動に参加するようになりました。活動を続ける中で、堀西さん自身も仏教の視点と重

※国籍や文化の違いを認め合い、共に生きていくこと

なることに気づきます。

「『一人の人間が安心して生きられる社会であるためには』というのは仏教と共通する視点です。もともと仏教は多様性、『一人ひとり違う』という教えです。しかし現実には目を向けると、誰一人取り残さないと掲げながら、私たちができることには必ず限りがあり、誰かを残してしまふんです。そういう限界がなく、本当に誰一人取り残さない存在は、仏教では『仏(ブッダ)』と呼ばれます」

堀西さんはその「有限性」に気づかされたと言います。そして「私たちが言う『みんな』は自分の想像が届く範囲に過ぎません。その外側の人々を意識できず、結果として取り残してしまう仕組みが、今の社会構造そのもののなのです」と話します。

「自立」の本当の意味とは？

「外国人支援」という言葉に対して、堀西さんは疑問を投げかけます。「そもそも、誰のことを『外国人』と言っているのでしょうか。ある国では外国人でなくても、別の国へ行けば外国人になる。環境が変われば、誰もが外国人になり得るのです」

また、堀西さんは小児精神科医の熊谷晋一郎氏が提唱する「自立とは依存先を増やすこと」という言葉を引用し、こう語ります。

「私たちは元気な人は何にも頼らず生きていて、障がいのある人は頼らなければ生きていけないと思いがちです。しかし実際には、元気な人ほど社会のさまざまな仕組みや人に無意識のうちに頼ることができています。障がいのある人が頼れる選択肢が極端に少ないことこそが、生きづらさの本質なのです」

これは、言葉や文化の違いから社会の仕組みにアクセスしづらい外国籍住民の状況にもそのまま当てはまります。

「多様さに対応していないシステムを維持したまま、困っている人を部分的に手助けすることを『支援』と呼んでいいのでしょうか。本当に必要なのは、彼らを一方的に助けるのではなく、社会のシステムそのものを多様な人々に対応できるように変え、頼れる選択肢——つまり依存先を増やしていくことです。それこそが福祉と共通する考え方であり、多文化共生の本当の姿なのではないでしょうか」と想いを語ります。

できることに光をあてる

現在、堀西さんは県内の学校で非常勤講師も務めています。そこでは「学びたい言語で学べる」「試験の言語が選択できる」といった、選択肢を増やす取組が行われています。きっかけは「日本語で答えるのが難しいけれど、自分の言語なら理解できる。勉強ができないと思われるのが悔しかった」という一人の生徒の言葉でした。

「文科省も『その子を持つすべての言語のレパトリリーを使って評価する』方針へと変わり始めています。できないことではなく、できることに光をあてる視点が広がっていることが希望です」と堀西さんは話します。

動的な多文化共生

支援する側・される側は固定されるものではありません。「今年6月の今市町大規模火災の際、今市コミセンに水を届けたのはブラジルのメンバーでし

た。災害時には要援護者と見られがちな人たちが、地域を助ける側にもなるのです」とその時を振り返ります。

こうした非常時の支え合いだけでなく、日常の暮らしの中でもお互いの背景を理解し合うことも重要です。

「育ってきた背景が違うため、時間感覚も違います。そもそも『時間に遅れる』という感覚自体がない場合もあります。そうした文化の違いを共通言語にするための『翻訳者』が必要になります。常に変化する社会の中で、異なる考えや価値観をつなぎ、ちがいを調整したり、時には摩擦を修復する。そうやって誰もが安心して暮らせる社会を目指し、動き続けることこそが『動的な多文化共生』です。一番大切なのは何か、を問い続ける姿勢は、これからもずっと続いていくと思います」と揺るぎない想いを語る堀西さん。

地域や社会の仕組みを多文化に限らず変えていくこと、そして互いの間に立つ『翻訳者』となり支え合うこと。堀西さんの問いかけと実践は、私たちが目の前の「ちがひ」とどう向き合い、地域の中でいかに寄り添っていきけるかという大切な道しるべを示しています。



令和7年度事業報告

出雲市社会福祉協議会では、誰もが安心して暮らせるまちづくり「地域共生社会の実現」を目指し、様々な課題に対応するため、地域福祉の推進に取り組みました。

主な取組

■ 地域包括ケアの推進

高齢者あんしん支援センターの活動を引き続き推進するとともに、あらゆる生活上の課題をワン・ストップで受け止め解決につなげる『総合的な相談支援体制』の整備を進めました。

■ 生活困窮者等への支援

生活困窮等、さまざまな生活課題を抱える世帯（人）に対し、問題解決と自立に向けた支援を行いました。

■ 権利擁護を必要とする人への支援

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力に不安がある方に対し、日常生活自立支援事業や法人後見事業等の事業により権利擁護に取り組みました。

■ 生活支援体制の整備



だれもが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域での生活支援サービスと支え合いの体制づくりを進めました。

■ 物価高騰等の影響を受けた人への支援



フードドライブを2回開催し、物価高騰等の影響により困窮される家庭や子育て世帯へ、地域の皆様からご寄贈いただいた食品・日用品を届けました。

○協力者：451の個人・団体 ○利用者：延べ2,234人

■ 子ども食堂への支援

立ち上げの相談や助成金等の情報提供、団体同士のつながりづくりを行いました。また、「出雲市子ども食堂サイト」にて各食堂の開催日公開など、情報発信にも取り組みました。

○市内の子ども食堂数:39ヶ所
(うち令和7年度開設:6ヶ所)



ハナミズキ食堂

＼ サイトはこちら ＼



■ 地域の福祉活動の推進

地区社会福祉協議会や福祉団体等が地域の福祉課題を解決するために行う活動を支援しました。



インクルーシブなまちをめざす縁JOYの会

■ 福祉教育の推進



みなみ小 車いす体験

職員やボランティア団体、介護の専門職などが学校や地域に出向き、「福祉の心の醸成」や「ふくしの人づくり」を進めました。

○実施回数：138回

■ 総合的な相談支援



制度やサービスにつながりにくいひきこもりや不登校の課題解決に向け、研修会の実施や要望の多かった「出雲のサードプレイスオンライン」を作成しました。

○掲載団体数：35団体

＼ MAPはこちら ＼



令和7年度事業報告の詳細は本会ホームページに掲載しております。



出雲市社会福祉協議会 事業報告

検索

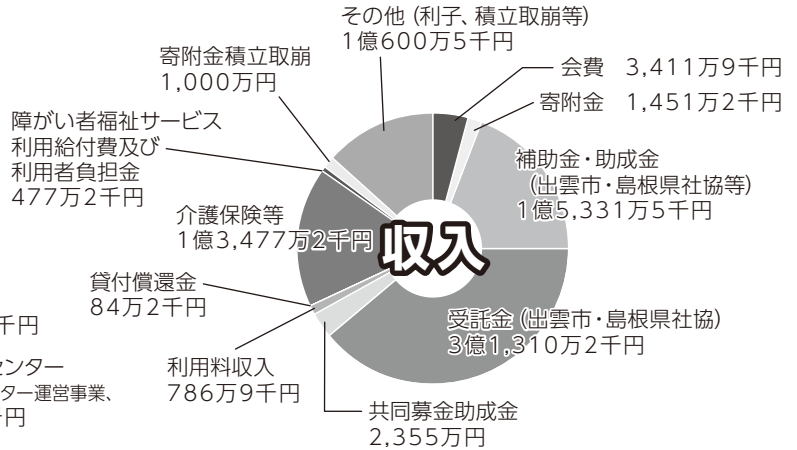


令和7年度決算報告

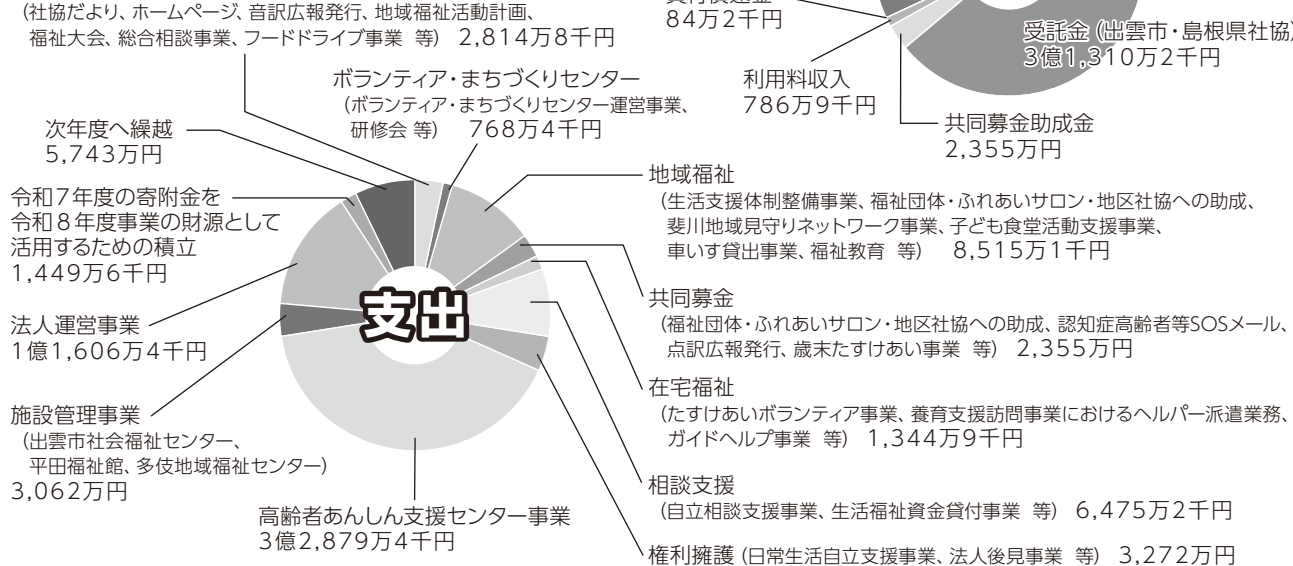
令和7年4月1日～令和8年3月31日

決算額 8億285万8千円

収入



支出



貸借対照表

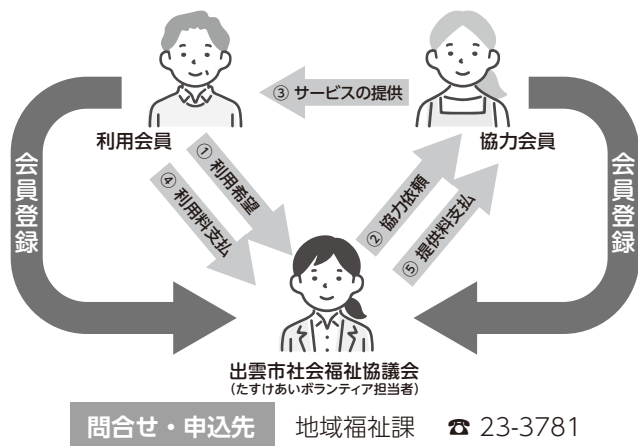
借 方		(単位：千円)
科 目 名	金 額	
《資産の部》		
流動資産	96,358	
現金預金	70,769	
事業未収金	24,257	
未収金	158	
未収補助金	719	
貯蔵品	1	
前払費用	296	
預け金	158	
固定資産	887,057	
基本財産	39,115	
定期預金	9,000	
建物	30,115	
その他固定資産	847,942	
土地	11,294	
建物	44,068	
車両運搬具	1,908	
器具及び備品	4,116	
有形リース資産	5,017	
ソフトウェア	196	
貸付事業資金貸付金	647	
長期預け金	101,591	
退職給付引当資産	47,770	
福祉事業積立資産	408,295	
センター建設積立資産	200,000	
権利擁護積立資産	124,078	
助成積立資産	84,217	
修繕積立資産	67,111	
寄附金積立資産	132,003	
たすけあいボラ積立資産	1,528	
人件費積立資産 (ガイド)	1,000	
運営資金積立資産 (包括)	6,500	
地域包括推進事業積立資産	14,898	
資産の部合計	983,415	

貸 方		(単位：千円)
科 目 名	金 額	
《負債の部》		
流動負債	40,648	
事業未払金	11,714	
その他の未払金	2,374	
1年以内返済予定リース債務	1,720	
未払費用	9,289	
預り金	12,946	
職員預り金	1,222	
前受金	0	
前受収益	1,383	
固定負債	175,657	
リース債務	3,297	
退職給付引当金	172,360	
負債の部合計	216,305	
《純資産の部》		
基本金	9,000	
国庫補助金等特別積立金	29,962	
福祉事業積立金	408,295	
センター建設積立金	200,000	
権利擁護積立金	124,078	
助成積立金	84,217	
修繕積立金	67,111	
寄附金積立金	132,003	
たすけあいボラ積立金	1,528	
人件費積立金 (ガイド)	1,000	
運営資金積立金 (包括)	6,500	
地域包括推進事業積立金	14,898	
次期繰越活動増減差額	96,813	
うち当期活動増減差額	1,878	
純資産の部合計	767,110	
負債及び純資産の部合計	983,415	



たすけあいボランティア 協力会員募集中！

ちょっとした困りごとを地域住民（協力会員）が有償で援助する会員制のたすけあい活動です。



皆さんが普段している掃除や買い物が地域の方の支えになるかもしれません。地域もあなたも笑顔になるボランティアはじめてみませんか？

年会費：500円
提供料：700円/時間

※2026年10月の活動から利用料の改定に伴い、提供料は1時間850円となります。

たすけあいボランティア
について知りたい方は
こちらから！！

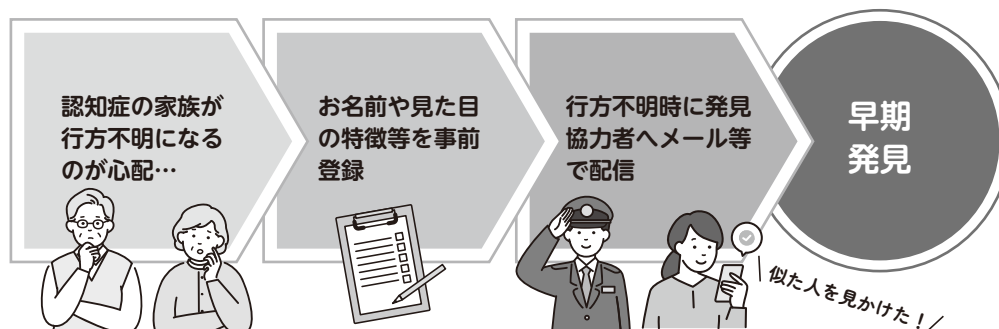


活動を動画で
チェック



認知症高齢者等「SOSメール」 発見協力者・事前登録の募集

認知症などで行方不明になった方の情報をメールやLINEで配信し、早期発見につなげる仕組みです。



発見協力者の登録方法

メールで登録

sos-join@izumoshakyo.jp
へ空メールを送信



LINEで登録

出雲市公式LINEを友だち追加



問合せ先

地域福祉課 ☎ 23-3781

対象となる方・事前登録のご案内

行方不明が心配なご家族がいらっしゃる方はご相談ください。事前登録で万が一の迅速な捜索に役立ちます。

発見協力者も募集中！

日常生活や仕事の合間に、配信された情報を気にかけていただくと大きな力になります！

災害義援金・海外救援金のお知らせ

名 称	送金額（7月31日現在）	受付期間
令和6年能登半島地震災害義援金 ※配分先：石川県、富山県、新潟県	これまでの送金額 6,372,170円	令和9年3月31日まで
令和6年9月能登半島大雨災害義援金 ※配分先：石川県	これまでの送金額 666,628円	令和9年3月31日まで
令和8年大槌町林野火災義援金 ※配分先：岩手県	これまでの送金額 0円	令和8年8月31日まで
令和8年熊本地震災害義援金	これまでの送金額 0円	令和8年10月30日まで
バングラデシュ南部避難民救援金	これまでの送金額 11,000円	令和9年3月31日まで
ウクライナ人道危機救援金	これまでの送金額 2,559,839円	令和9年3月31日まで

問合せ先／日本赤十字社島根県支部出雲市地区（事務局 出雲市社会福祉協議会本所・各支所）



ご寄附 ありがとうございます

令和8年5月11日～7月10日受付分（敬称略）

*出雲市社会福祉協議会ではご寄附いただいた方のご意志を尊重し、氏名等を掲載しています。なお、金額は掲載しませんのでご了承ください。

一般寄付

<団体>

有限会社 夢工房

曹洞宗 第五教区 寺族会

香典・玉串料・お花料返し

() 内は故人

<出雲>

今市町 錦織 まゆみ(至)

今市町 加藤 智治(百合子)

今市町 久屋 由紀子(孝男)

大津町 吉田 美智子(竹内シズエ)

医大南町 藤原 康治(良子)

古志町 小玉 重夫(武子)

古志町 山根 茂(誠)

松寄下町 尾添 実(勝子)

松寄下町 寺本 一浩(誠一)

下横町 野村 敏治(美好)

大塚町 佐々木 章(幸枝)

渡橋町 石倉 公司(輝子)

<平田>

平田町 郷原 勝(廣)

平田町 川瀬 裕子(兼子)

平田町 大谷 智(利子)

平田町 石原 範男(輝男)

灘分町 土江 勇(みき子)

灘分町 福岡 善伸(幸子)

灘分町 池田 忠(八重子)

灘分町 宮原 伸幸(笑子)

灘分町 須谷 充郎(昭二)

島村町 渡部 健治(千恵子)

西郷町 西尾 祥子(勇)

万田町 福嶋 隆由(成子)

万田町 倉橋 善雄(トヨ子)

河下町 錦織 広美(庫光)

唐川町 荒木 健(照子)

唐川町 荒木 修一(吉人)

唐川町 荒木 悦子(豊)

野石谷町 原 直樹(晴良)

岡田町 錦織 孝夫(和男)

園 町 坂本 幹男(昭子)

十六島町 渡部 幸枝(勇)

坂浦町 三島 智寿鶴(悦夫)

野郷町 原田 久美子(登志夫)

<佐田>

須 佐 安井 裕久(澄江)

大 呂 藤原 智美(一二美)

反 辺 今岡 隆(綾子)

東 村 鎌田 悟志(三枝子)

八幡原 岩崎 隆治(久子)

<多伎>

口田儀 鳥屋尾 栄司(昇)

口田儀 原田 潤幸(山岡 文子)

小 田 加藤 政男(安井 計子)

小 田 石飛 知也(クラ)

多 岐 木村 知弘(光利)

多 岐 山本 先人(孝子)

久 村 渡部 剛(和雄)

<湖陵>

三 部 本田 奈美(正巳)

<大社>

中荒木 石田 武(博子)

中荒木 中山 幸義(イキ子)

北荒木 菅田 修司(郁子)

北荒木 鎌田 泰志(文子)

北荒木 椿 栄(實)

修理免 伊藤 和志(征男)

修理免 近藤 昭(中島 禮子)

杵築西 坂本 久美(石飛 禮子)

<斐川>

学 頭 高木 悦子(清次)

莊 原 江角 秀幸(守)

莊 原 原 千秋(佳男)

三 絡 和田守 裕司(茂)

上庄原 多々納 睦雄(和子)

出 西 中島 進(百合子)

神 氷 樋野 美智子(ハルエ)

求 院 矢野 榮子(素夫)

福 富 児玉 勝美(晴一)

沖 洲 飯塚 隆(昇)

三分市 玉木 久好(アキ)

坂 田 池田 修司(初江)

匿名

17件

ご寄贈

<出雲>

今市町 影山 陽子

大津町 江角 岐彦

<平田>

灘分町 藤原 郁也

<市外>

雲南市大東町 内田 隆

令和8年6月 出雲市 今市町大規模火災に おけるご支援のお礼

令和8年6月に発生した今市町大規模火災に際し、多くの皆さまからご支援をいただき誠にありがとうございました。お寄せいただいた支援物資は、被災された方々へ責任を持ってお届けいたしました。皆さまの温かいご協力に、深く感謝申しあげます。

皆さまからのご寄附は、市内で福祉活動を行う団体及び
各地区社会福祉協議会への助成などに使わせていただいております。

●出雲市社会福祉協議会に対する寄附は、住民税と所得税の控除対象になります。また、寄附者が法人の場合には、損金算入の制度が利用できます。

【例】出雲市にお住まいの方が本会へ50,000円の寄附をされた場合

※税額控除を選択した場合

〔1〕所得税(50,000円－2,000円)×40%＝19,200円

〔2〕住民税(50,000円－2,000円)×10%＝4,800円

〔1〕＋〔2〕＝24,000円・・・税額控除額となります。

※一例であり、個々のケースにより控除額は変わります。詳しくは税務署等へお問い合わせください。

●「地区の社会福祉協議会へ寄附をしたが、市の社協だよりに掲載されていない」とのお問い合わせにつきまして、本会と各地区の社会福祉協議会は地域福祉の推進におけるパートナーであり連携して事業を行っておりますが、別の団体であることから、各地区社会福祉協議会に対する寄附はこの紙面に掲載しておりません。ご了承ください。



令和8年度出雲市総合社会福祉大会

- 日 時：令和8年9月15日（火）13：30～15：30
- 会 場：出雲市民会館 大ホール
- 内 容：式典（長寿のお祝い、社会福祉功労者の表彰）
講演（映画監督・脚本家 錦織 良成氏）
入場無料・申込不要
「講演」のみの参加も可能です。



○障がい者就労継続支援事業所による商品販売もあります。
○駐車場に限りがありますので公共交通機関のご利用をお願いします。

問合せ先

総務課企画係 ☎23-3781



島根トヨタグループが地域福祉に貢献！

島根トヨタグループ様（島根トヨタ自動車、トヨタカローラ島根、ネットトヨタ島根）が「募金百貨店プロジェクト」に参加されます。市内の各店舗では、車検による売り上げの一部を「赤い羽根共同募金」に寄付され、出雲市の福祉活動に役立てられます。

募金百貨店プロジェクトとは？

企業の商品の売り上げの一部を赤い羽根共同募金に寄附する仕組みです。購入者の負担はなく、企業・購入者・地域の3者が「WIN-WIN-WIN」になれる社会貢献活動です。

参加企業
募集中！

募金百貨店プロジェクトについて、お気軽にご相談ください。

問合せ先

出雲市共同募金委員会 ☎23-3781



出雲養護学校 × 市社協 高齢者疑似体験授業

出雲養護学校で初めて高齢者疑似体験の授業を行いました。生徒からは「大変さが分かった」「将来福祉の仕事に就きたい」との声もあり、素敵な体験となりました。

レ
ポ
ー
ト



ふくしの支え手企業

Vol.7

株式会社さんちゃんマート

ふだんのくらしをしあわせにする
地元企業をご紹介します！

本会が生活にお困りの方や子育て世帯を「食」で応援する「フードドライブ事業」に賛同いただき、継続して食品を寄贈いただいています。物価高騰等によりお届けする食品の確保が難しいなか、本会の取組を支えてくださる心強い存在です！

企業の声

業務用食品スーパー出雲店の「さんちゃんマート」では、食を扱うお店として、さんびるグループの一員として、フードドライブ事業に協力しています。

毎回、お礼のメッセージを読ませていただき、参加人数の把握をして、継続することの重要性を感じています。

会社として地域貢献活動は重要と考え、障がい者雇用、外国人の雇用を含めて、できることから始めています。

食品の値上げラッシュ、フードロスの問題と食に関わる問題はたくさんあります。1社だけでは解決できない問題も多いですが、1社でも出来ることもあるので今後も社会貢献活動を続けていきます。



出雲市社会福祉協議会連絡先

☎23-3781（代表） FAX20-7733（代表）

総務課・地域福祉課／☎23-3781 FAX20-7733

平田支所／☎63-4624 FAX63-5011

湖陵支所／☎43-2310 FAX43-2226



高齢者あんしん支援センター

出雲／☎25-0707 FAX25-0901

多伎／☎86-7122 FAX86-2351

斐川／☎73-9125 FAX72-4068

〈窓口対応〉平日8:30～17:15

☑ fukushi@izumoshakyo.jp

生活支援課／☎23-3790 FAX20-7733

佐田支所／☎84-0131 FAX84-9034

大社支所／☎53-3196 FAX53-6053

平田／☎63-8200 FAX63-5011

湖陵／☎43-7611 FAX43-2226

ホームページ <https://www.izumoshakyo.jp/>

いずも権利擁護センター／☎25-0955 FAX20-7733

多伎支所／☎86-2331 FAX86-2351

斐川支所／☎73-9330 FAX72-4068

佐田／☎84-0019 FAX84-9034

大社／☎53-3232 FAX53-6053

